

第75回市町村職員を対象とするセミナー

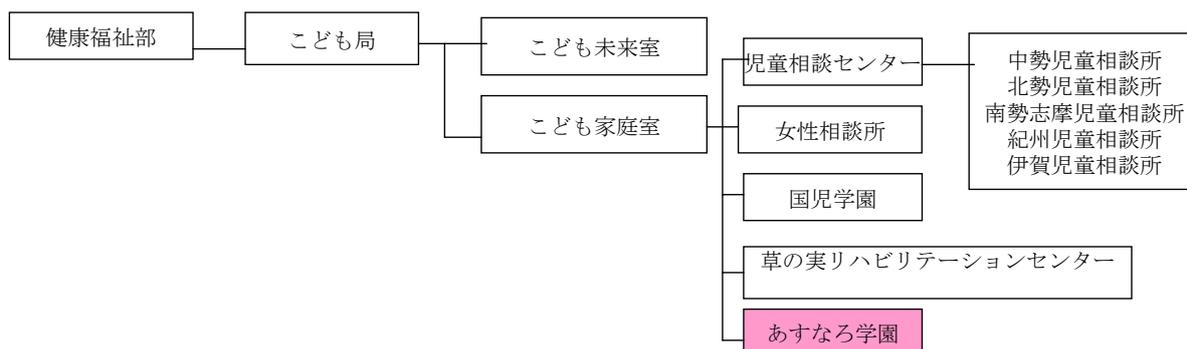
20. 9. 19

人材育成を中核とした県と市町の連携 ～三重県の取り組み～

三重県立小児心療センターあすなる学園
こどもの発達総合支援室
市町支援グループ
中村 みゆき



三重県の組織



○小児心療センターあすなる学園

第1種自閉症児施設であり、児童精神科の病院である。(外来診療、入院治療、医療連携、市町支援)

新規外来患者 584名

外来患者 19,607名

延べ入院患者 23,871名

(80床)

(平成20年3月31日現在)

* 三重県の人口 1,866千人

18歳未満 317千人



子どもは困っています。その1

✿ : 中学2年生 A君

「経過」

授業中の立ち歩き、暴言、特定の女子へのストーカー行為：メール攻撃、嫌がらせ電話、靴隠し、持ち物壊し、つきまとい→被害女子は恐がり不登校、A君には学校から登校ストップ→あすなる学園紹介。



子どもは困っています。その2

: 小学生時代

低学年では集団行動が苦手、帰宅後も誰とも遊ばず、特定のミニカーを並べて一人遊び、難しい漢字を書く、などこだわりがみられた。5年生で学級崩壊の中心となり、6年生でナイフなどに興味を持ち、購入。

: 幼児期

3歳児健診でことばの遅れ指摘、保育園ではことばでの指示が入らない、友だちとうまく遊べない、一人遊びが多い、ヒーローになりきる、おもちゃなどへのこだわり。

情報収集が困難、各年代で気づいている？が支援されていない。

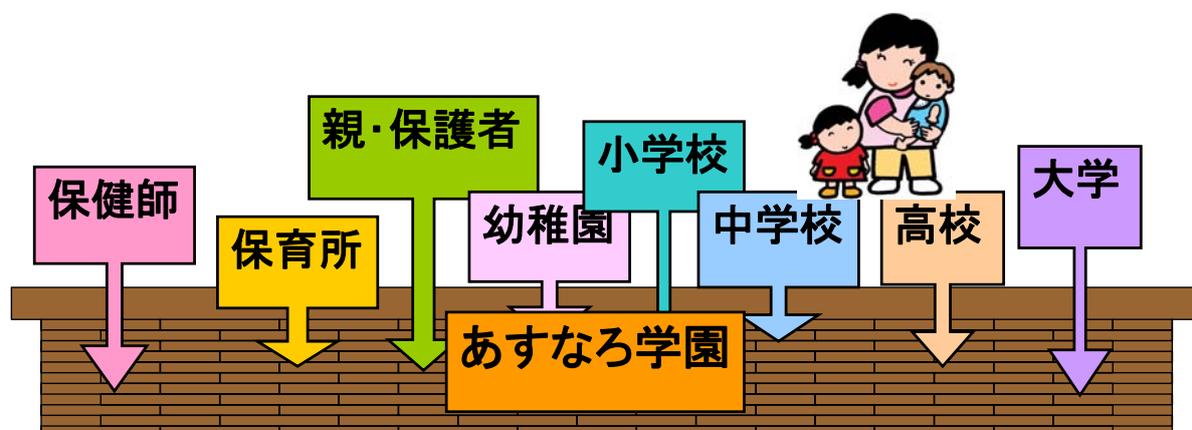


課題

- ❁ 保健師→保育士→知人→児相→小児科→療育機関→精神科クリニック→あすなろ受診に2～3年
- ❁ 更にあすなろの初診は3～4カ月待ち
- ❁ 保育所、幼稚園、学校での問題行動悪化
- ❁ 保護者と担任等との関係悪化
- ❁ 早期に支援すれば受診は不要？のケース
- ❁ 保育士、教師の見極め力、指導力の不足
- ❁ ケース管理が曖昧、支援が途切れている



<現状> 受診・相談・支援方法を求めて



身近なところで早期発見 途切れのない支援システム

- ①各市町に発達総合支援室、又はその機能の構築
(ワンストップ窓口)保健・福祉・教育、一元化の組織
- ②3歳児、5歳児発達チェックによる早期発見と個別の指導計画による早期支援→保健師・保育士・教員及び担当部署職員の人材育成
- ③発達障がい支援システムアドバイザー研修→1年間の人材育成後、発達総合支援室に配置



あすなろ学園が市町を巡回指導します



①発達総合支援室 もしくはその機能

発達総合支援室とは

1)子育ての総合相談支援機能

保健、福祉、教育などバラバラに相談する縦割り行政になっている。→ワンストップ窓口、市町に生まれ育つ全て子ども

2)発達障がいについての専門機能

発達障がいの人や保護者、在籍する機関の職員等に総合的なサポートを行う。

現時点での問題解決、将来を見据えたマネジメント、切れ目のない支援を行う。

※他機関の専門家に相談する前に、まずは我が市町で問題解決できる専門的組織。

職員配置:

- ・ 関係機関を紹介するなど、単なる相談の窓口ではないので発達等について専門的な知識・技術が求められる。発達障がい支援システムアドバイザー研修を受けた保健師、保育士、教師等



②3歳児、5歳児保育所・幼稚園で発達チェック

保育士・教員及び担当部署職員の人材育成

①診断前支援の意義

②保育・教育に活かせるあすなろ学園のスキル伝達

③方法

- ✿ 保育所・幼稚園の担任は、全ての3歳児、5歳児に発達チェックリストを用いて集団場面にて複数人で数回チェックする(早期発見)
- ✿ 保健・福祉、教育の担当部署職員はCM、ケース管理者として、個別の指導計画作成を保育所・幼稚園に指示、巡回指導に同行し、検討会の司会等を行う
- ✿ 気になる子の個別の指導計画作成→あすなろ学園職員が年2回巡回指導→実施→評価(早期支援)
- ✿ 個別の指導計画をツールとして次のステージへの引き継ぎ



③発達障がい支援システムアドバイザー研修 「目利き・腕利き」養成

✿ 1年間あすなろ学園でトレーニング

✿ 終了後は市町の発達総合支援室に配属

<内容>

- ①外来診療、入院治療、療育、医療連携等に参加
- ②特別支援教育、関係機関との検討会に参加
- ③市町の保育所、幼稚園、学校への巡回指導に同行

<目指す姿>

- ①個別ケースへの指導力の向上
- ②関係機関等との調整能力の向上



各市町に対する1年間の人材育成

あすなる学園では、平成15年度より市町から職員を受入れ1年間の専門研修を行っている。

平成15年度 保育士（亀山市）

平成16年度 保健師（亀山市）

平成17年度 保育士（亀山市）

	派遣区分	平成19年度	平成20年度
発達障がい支援アドバイザー研修	市町から派遣	保育士2名（志摩市、鈴鹿市）	保育士4名（いなべ市、川越町、鈴鹿市、志摩市） 保健師1名（津市）
	教委内地留学	教員2名（津市、亀山市）	教員2名（いなべ市、名張市）
	計	4名	7名

県の体制として・・・

平成19年度～ あすなる学園にこどもの発達総合支援室を設置

研修や市町での途切れのないしくみづくりの支援、発達チェックリストによる早期発見、早期支援を行う。

こどもの発達総合支援室：室長1名、職員1名、嘱託員4名で構成



各市町に対する支援状況は日々更新

あすなる学園こどもの発達総合支援室が各市町を訪問し、保健・福祉・教育の連携（一元化）組織または機能づくりを支援する

